

基礎知識

人間工学の視点から検証した実験台の高さ。実験台の高さは作業性に関わるばかりでなく、研究者の体に影響を及ぼします。低すぎると腰に負担がかかり、高すぎると肩に力が入ってしまいます。従来、実験台の作業面の高さは800mmが標準でした。しかし日本人の高身長化に合わせて高さ850mm/900mmを標準仕様としました。研究者・作業者の身長や作業姿勢（立ち作業・座り作業）に合わせて選択頂けます。推奨サイズ作業面の求め方身長/2+5cm（靴のかかとを考慮して、求められる数字より若干高めが適切です）



代表的な使用例

作業面は耐薬品性の良いケミサーフを採用しており、薬品がこぼれおちても、外観を損なうことはありません。実験台に載せる機器が軽量な場合は、木製実験台。重量物の場合はスチール製実験台を推奨します



話題性のある使用例

試薬棚・ガス栓・各種コンセント・LED照明などオプションの追加が可能です。収納スペースを増やし雑然としがちな研究室空間を快適に保ち、研究者をストレスから解放します。



SAMPLE

主な仕様と価格帯



オプション



機器挿入時のサンプルの性状

固体		液体		気体	
塊状	○	均一	○	低濃度	×
粉粒体	○	不均一	○	中濃度	—
フィルム	○	ゾルゲル	○	高濃度	—

○：挿入可、×：挿入不可、—：言及なし

主な仕様（例）

機種名・型式	木製実験台：LBシリーズ スチール製実験台：LBSシリーズ
作業面材質	ケミサーフ
サイズ	幅：1800～4200mm 奥行：1200～1500mm 高さ：800～900mm
オプション	流し台、試薬棚（LED照明付き）、各種コンセント、ガス

利用されている業界

◎ 化学・化成品業界	◎ 鉄鋼・金属業界
◎ 医薬・医療品業界	◎ 石油・石炭業界
◎ 食品・飲料業界	◎ 大学等研究機関
◎ 飼料・肥料業界	◎ その他

利用度が高い ◎>○>△>▼>× 利用度が低い

参考価格帯（本体のみ、必須付帯備品・機能拡張備品除く）

～10万円	10～50万円	50～100万円	100～500万円	500～1,000万円	1,000万円～
	○	○	○		

【寄稿：貴商エンジニアリング株式会社】